

〈目的〉ヒトの子どもは、生後約1年までは移動の際に運ばれる必要がある。子どもの体重は、出生時の約3kgから歩行を獲得する1歳前後のおよそ10kgにまで増加し、子どもを連れて移動する際には、たくさんの子どもの荷物も運ばなければならない。これらのことから、子どもの運搬は、身体的に負担がかかるのではないと思われる。そこで本研究では、子どもの運搬における身体的負担を明らかにしようと、次の調査、実験を試みた。

〈方法〉はじめに、実際の子どもの運搬方法を知るために、東京駅構内で子ども連れ242組の野外調査(写真撮影)をした。次に、野外調査から得た結果から、1996年4~6月女子大学生16名(立位6名、歩行10名)により、10kg乳児ダミーの運搬(①だっこ(腕)②だっこ(用具)③おんぶ(用具))を行い心拍数測定、 O_2 消費量からエネルギー代謝率(RMR)を算出した。最後に、乳児をもつ母親のおんぶ、だっこについての実際、意識等を知り実験、調査との関わりを見るために子どもの運搬についてのアンケート調査を行った。

〈結果〉今回の実験調査から、おんぶ(用具)については、身体負担は軽いが(RMR2.8)あまり行われていないこと、またその理由、だっこについては、だっこ(腕)(RMR3.7)次いでだっこ(用具)(RMR3.1)は身体負担が重いこと、それにもかかわらずよく行われていること、さらにその際の疲れる身体部位などが明らかになった。